

# 京都府漁海況情報

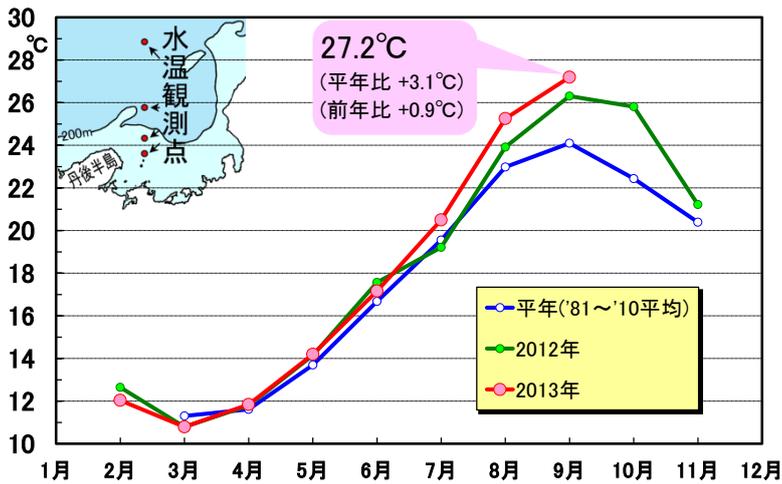
## 海の状況

京都府農林水産技術センター海洋センター 海洋調査部  
<http://www.pref.kyoto.jp/kaiyo/>  
 電話：0772-25-3078 FAX:0772-25-1532

### 【現況】

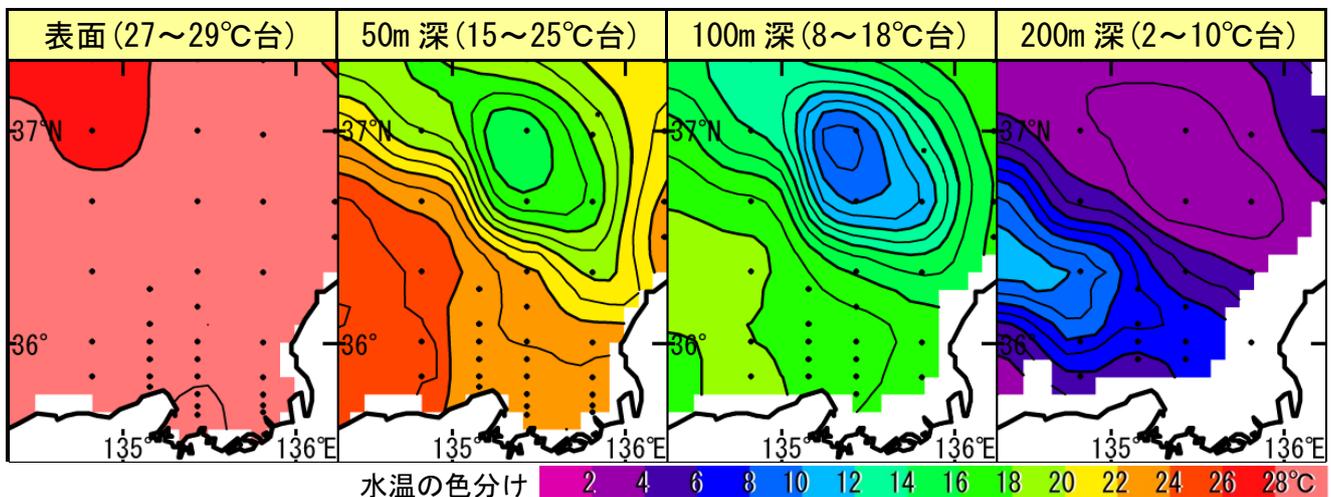
9月上旬における京都府周辺の表層水温は、前年および平年より高めで推移していました。

京都府沖の表層水温(0~50m 深平均)



京都府周辺の各層水温(2013年9月上旬)

資料元：(独)日本海区水産研究所



### 【今後の見込み】

資料元：気象庁，(独)日本海区水産研究所

向こう1か月程度の予報	
京都府周辺の表層水温	「平年より高め～平年並み」で推移する見込み
対馬暖流の勢力	「平年より強め」で推移する見込み
沖合からの冷水域の張り出し*	「弱め」で推移する見込み

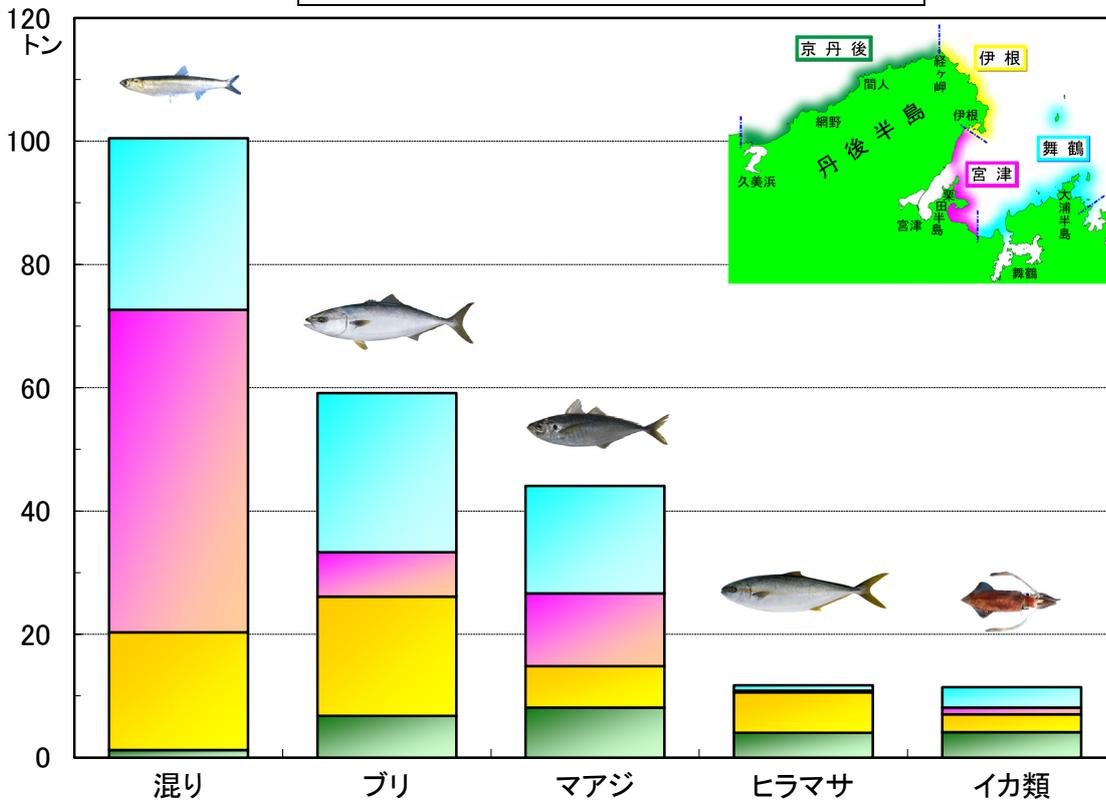
\*冷水域の張り出しが強いと、対馬暖流域に生息するブリなどの浮魚類が沿岸に来遊しやすと考えられています

# 漁模様 ～2013年8月～

## 【定置網漁業】

全体の水揚量は、平年の半分以下および前年の6割に留まりました。

2013年8月の地域別漁獲量(上位5魚種)



8月漁獲量(トン) 京都府漁業協同組合集計				
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考
混り	100.5	163.1 (62%)	295.1 (34%)	<混り> マアジが約4割, カタクチイワシとウルメイワシがそれぞれ約2割, マイワシが1割強, 残りが小型のサバ類などと推定されました。 <ブリ> はまち銘柄(尾さ長40cm台主体)が5割強, つばす銘柄(尾さ長30cm以下主体)が5割弱でした。 <イカ類> ケンサキイカ(白いか)が9.7トン, アオリイカが1.7トンなどでした。
ブリ	59.1	54.5 (108%)	157.0 (38%)	
マアジ	44.1	50.7 (87%)	99.6 (44%)	
ヒラマサ	11.7	7.0 (167%)	1.2 (1016%)	
イカ類	11.4	17.6 (65%)	10.2 (112%)	
シロサバフグ(さんきゅう)	9.2	3.1 (293%)	3.8 (240%)	
マルアジ(青あじ)	9.2	4.1 (222%)	16.8 (55%)	
タチウオ	7.6	14.3 (53%)	9.9 (76%)	
シイラ	7.3	14.0 (52%)	14.8 (49%)	
カジキ類	6.5	4.4 (148%)	4.8 (137%)	
その他	80.2	236.0 (34%)	158.1 (51%)	
合計	346.8	568.9 (61%)	771.1 (45%)	

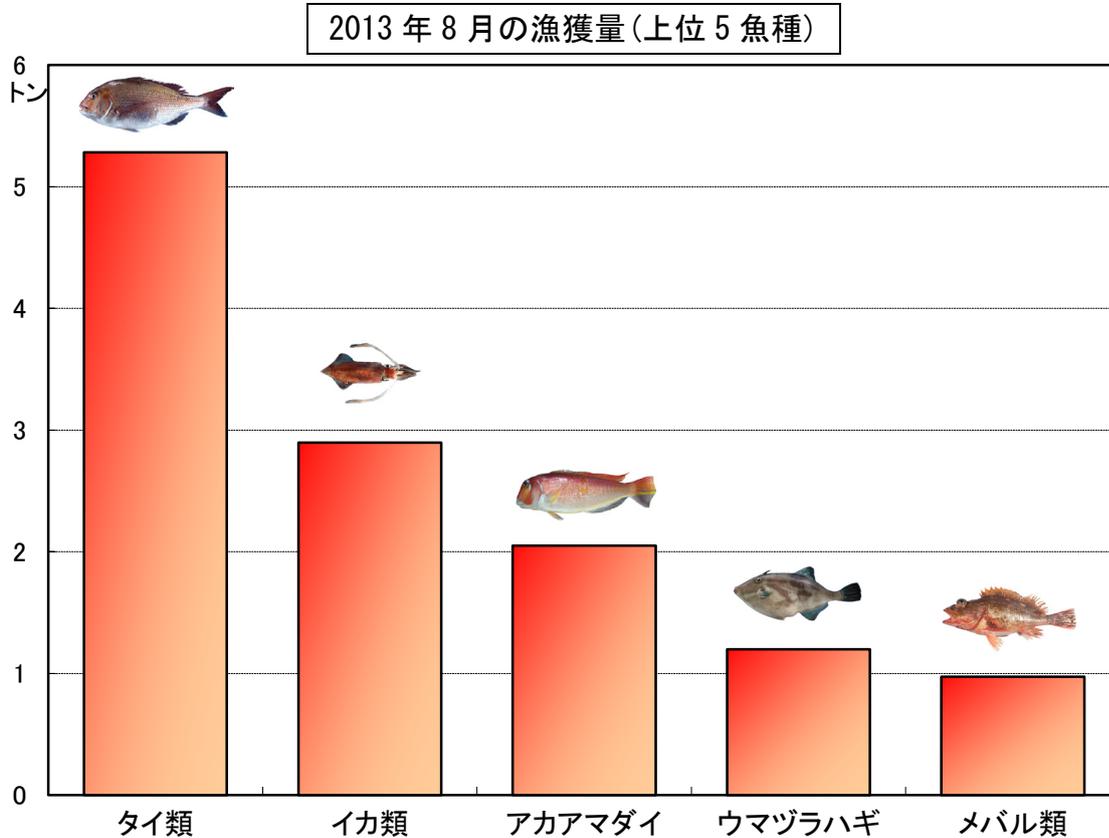
平年は過去10年平均

## 【底曳網漁業】

資源保護のため、6月1日から8月31日まで休漁です。

## 【釣り・はえなわ漁業】

全体の水揚量は、前年の7割および平年の8割でした。

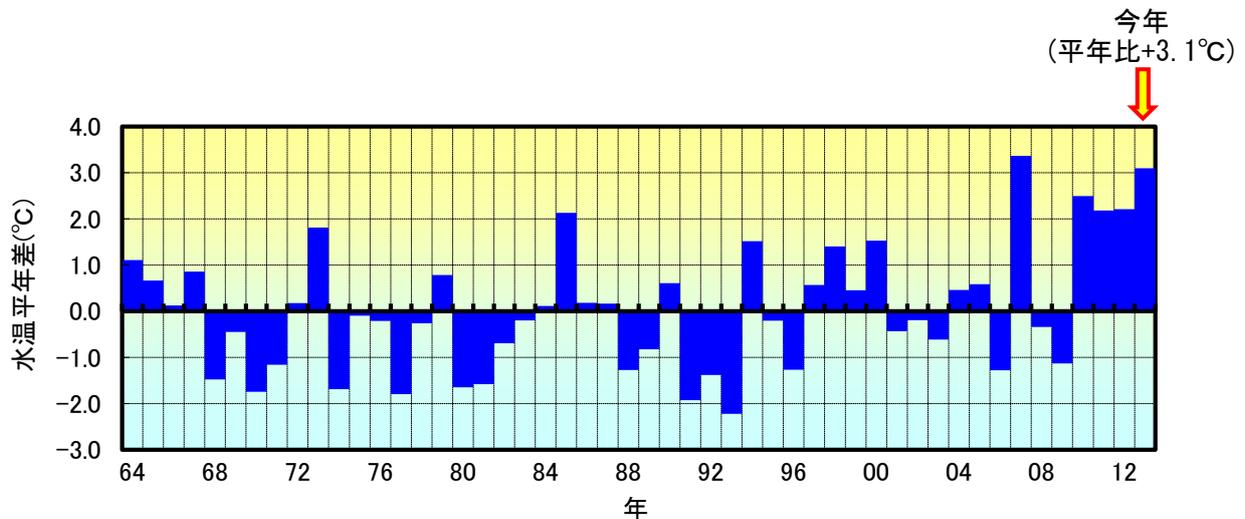


8月漁獲量(トン) 京都府漁業協同組合集計				
魚種	2013年	2012年(前年比)	平年(平年比)	備考
タイ類	5.3	3.8 (138%)	3.6 (146%)	<タイ類> マダイが6割強, キダイ(レンコダイ)が3割強, クロダイとチダイが若干量でした。 <イカ類> ケンサキイカ(白いか)が2.3トン, ソデイカ(たるいか)が0.5トンなどでした。
イカ類	2.9	5.8 (50%)	4.2 (68%)	
アカアマダイ(ぐじ)	2.1	4.3 (48%)	2.5 (81%)	
ウマヅラハギ(長はぎ)	1.2	2.7 (45%)	1.8 (66%)	
メバル類(もいお)	1.0	1.5 (66%)	1.7 (58%)	
マアジ	0.4	0.5 (97%)	0.5 (83%)	
ブリ	0.3	0.2 (193%)	0.5 (64%)	
ヒラマサ	0.2	—	—	
スズキ	0.1	0.2 (38%)	0.1 (88%)	
カレイ類	0.0	0.0 (68%)	0.3 (9%)	
その他	0.9	1.3 (65%)	2.6 (33%)	
合計	14.3	20.3 (70%)	17.9 (80%)	

平年は過去10年平均

## 【トピック ～今夏の高水温②～】

1 ページ目でお示したように、今夏の京都府周辺の表層水温は依然として平年より高めで推移しています。今年9月の水温は、同月では2007年に次ぐ高水温を記録しました(下図)。



9月の水温平年差(京都府沖0~50m 深平均)の推移。

前号で6月から7月にかけて一部の南方系魚類が例年より多く来遊した可能性にふれましたが、8月以降もその傾向がみられます。例えば、日本海側には少ないとされるカンパチが、今年8月に未成魚主体で平年同月比約18倍の36トン水揚げされました(京都府漁協集計)。

また、定置網に迷い込むマグロ類幼魚が例年の夏より目につきます。ちなみに、9月中旬に定置網で混獲されたマグロ類幼魚の一部(尾さ長13~27cm, 62尾)を調べたところ、全てコシナガでした。



京都府漁協に水揚げされたカンパチ(平成25年8月23日, 写真左), 定置網で混獲されたコシナガ幼魚(平成25年9月11日, 写真右)。コシナガは成長にともない胸びれが長くなりますが、幼魚期にはクロマグロ(しび)との外見上の違いが分かりにくいです。